

認定こども園こじか

昭和46年4月 子鹿幼稚園として開園

平成27年4月 幼保連携型認定こども園となる

園児数 年長児 3クラス

年中児 3クラス

年少児 3クラス

未満児 3クラス 計12クラス

令和5年5月1日現在、0歳から5歳242名の 子どもたちが、日々元気に遊び生活を楽しんでいる。

教育方針

「自由に物事を考え、自分の意見を言える子ども」 「独立して行動でき、責任のもてる子ども」 「創造主を敬い、人を思いやり愛する創造的な子ども」





はじめに

近年、核家族化や少子化等に伴い、地域の近所付き合いなど大人同士のかかわりや、子ども同士の交流の場も少なくなっているようです。当園では、園児の家庭は核家族が多いものの、両親が近くに住んでおり、共に子育てができるという環になっている家庭が多く見られます。そういった中で、地域に開かれた子育て支援ができるにはどうすればよいか、考えていきたいと思います。

また、当園のある鹿嶋市の歴史や伝統文化を知っていく中で、 身近な社会資源を理解し、子どもたちがどのようにかかわっ ていけるのか、考えていきたいと思います。

事例1:ひらあい会やすはま会での交流会	

ひらあい会交流会とは…

当園のある平井地区の社会福祉協議会の愛称で、住民主体のボランティア組織。当園のホールを場所提供することで、年長組とおじいちゃんおばあちゃんたちの交流を定期的に行うことができる。

ひらあい会 内容〈コロナ前〉

- ・座ったままでもできる、簡単な健康づく り体操を園児とともに楽しむ。
- ・いくつかのグループに分かれて、大判1 枚程度の紙にちぎり絵製作をして楽しむ。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんとジャンケンゲームをして楽しむ。
- ・園児とともに、園の給食を食べ、楽しい食事会を開く。
- ・時には、園児の保護者も参加してのお手 玉作り体験。

(三世代交流)



ひらあい会 内容〈コロナ禍〉

・年長児が4つのグループに分かれて、歌、新当流、鼓隊、遊戯 ソーラン節を披露した。



※令和4年11月発行 ひらあい会だよりより

すはま会交流会とは…

当園と同じ平井地区にある、社会福祉法人すはま会にご招待を受け訪問をし、デイサービスや入居者の方々との交流会に参加した。



すはま会 内容〈コロナ前〉

5月 こどもの日祝会交流会 (主に年長児)

- ・園児が歌や踊りを披露し、最後に肩たた きのプレゼントをした。
- ・施設の方に紙芝居を読んでもらい、おじいちゃんおばあちゃんたちとともに見た。
- ・トーンチャイムの演奏を聴いた。等

7月 七夕交流会 (主に年少児)

- ・園児が歌や踊りを披露。
- ・七夕の短冊作りを行う。 (子どもたちのお願い事を、

おじいちゃんおばあちゃんたちに書いて もらい、一緒に短冊や笹飾りを飾った。)

等

すはま会 内容〈コロナ禍〉

5月 こどもの日祝会交流会 (主に年長児) 子どもたちの写真付き手作りパネルを プレゼント。お礼に、折り紙等で作られた、 こいのぼりが飾られた屏風を頂き、 とても喜んでいた。

7月 七夕交流会 (主に年少児)

お互いに手作りの笹飾りを交換し、 それぞれの場所で飾った。

※今年度5月、約3年ぶりに、年中児男の子が施設に訪問をし、コロナ前と同じような交流を行うことができた。肩たたきでは、入居者の方から「涙が出るくらい嬉しい」との声がたくさんあり、その言葉に子どもたちも満足そうだった。

本事例におけるよかった点、課題

〇よかった点

- ・お互いの持っているものを与え合って、心の交流がもてた。
- ・家族以外にも、地域とのかかわりの中で育てられていることを知ることができた。

〇課題

・おじいちゃんおばあちゃんと普段から接していない子は、関わり方に少 し戸惑いが見られた。そのような子たちのサポートの仕方を、よく考えて いく必要がある。

事例 2: サッカー教室 ~鹿島アントラーズスクールサッカーコーチの方々とともに~



サッカー 内容

- ・準備体操として、コーチとともに鬼ごっこをする。
- ・一人一つサッカーボールを使って、ボールに親しむ。 (投げてキャッチ、体の周りを転がして遊ぶ 等)
- ・カラーコーンを用いて、ドリブルやシュートの練習をする。
- ・ミニゲームをする。



等

本事例におけるよかった点、課題

〇よかった点

- ・コーチとともにサッカーを楽しむ中で、健康な体を作るだけでなく、高い目標をもって挑戦する気持ちや、失敗や挫折に負けない強い心が育つ。 コーチや仲間と接する中で、協調性やマナー、思いやりの気持ちも育つ。
- ・たくさんのコーチとかかわることで、一つの技術に偏ることなく、幅広い指導を受けることができる。また、毎回コーチが入れ替わることで、子どもの気持ちも切り替わり、以前できなかったことができるようになることもあり、さらなる挑戦にもつながった。

〇課題

・サッカーに対して、苦手意識がある子への対応をどうするべきか。 (子どもたちがいかに楽しめるか、保育者の配慮が必要。)

> 事例3:鹿島の偉人 「塚原ト伝 新当流」の型を体験

塚原ト伝とは…

戦国時代に双璧をなした剣豪。「一之太刀 (ひとつのたち)」と呼ばれる奥義を会得 し、「鹿島新當流」を創始した。鹿嶋市の 偉人の一人で、鹿嶋市のイメージキャラク ター「ぼくでん」にもなっている。

2013年、NHKテレビドラマでも放送された。





新当流とは…

当園で行っている新当流の内容

- ①打ち込み
- ②第一の正眼
- ③第二の正眼
- ④第三の正眼
- ⑤第一から第三の正眼まで続け行う
- **⑥結手**
- ⑦打ち込み



本事例におけるよかった点、課題

〇よかった点

- ・新当流を通して、ト伝の「技」と「心」を受け継ぐまではいかなくとも、 木刀をかざして型の練習をしたり、「エイ」「ヤー」「トゥ」と大きな声 を出したりすることは、精神力や集中力を高めることにもつながる。
- ・鹿嶋市で親しまれている「鹿島愛護かるた」にも、塚原ト伝のことが書かれており、鹿嶋の歴史に興味を持つきっかけの一つにもなった。

〇課題

- ・木刀の使い方によっては、危険なものともなり得るため、木刀を持った 時の心構えと、集中力を養うため、くり返し指導をする必要がある。
- ・ト伝を知らない子がほとんどのため、その歴史や精神を子どもたちに知らせてから、新当流にふれさせる必要がある。

その他 地域とのかかわり

- 〇「鹿嶋市文化財愛護かるた」への取り組み
- ○海水からの塩づくりの見学

(地域老人会塩づくりグループの人たちと)

- 〇理科教室「宇宙の話」
- 〇ライフガードの皆さんより「海での安全な遊び方について」
- 〇裏千家師範による茶道のお稽古
- 〇親子陶芸教室
- ○公共施設での職場訪問

等

鹿嶋市文化財愛護かるた



茶道のお稽古





まとめ

地域とのかかわりは、子どもにとってとてもよいことである。そのためには、園が情報を発信したり、地域からの要望を受けたりしながら、地域とのかかわりをさらに高めていくことが必要である。それによって子どもたちは、自分たちが地域の中で守られていることを知ったり、感謝されたりという経験を積み、心の成長にもつながることができると考える。

また、代々鹿嶋の歴史に携わっている人たちとかかわることで、<mark>鹿嶋の歴</mark> 史にもふれ、次の世代にも引き継いでいきたいと思えるような、豊かな心 が育つよう、配慮していきたい。

今後も、子どもたちが鹿嶋の中でのびのびと成長できるよう、地域とのかかわりを継続しながら保育に努めていきたい。